

委員からメール等で個別にいただいた意見

大塚委員より

【若年層・外国人の地域コミュニティへの積極的参加】

- ・「若年層・外国人の地域コミュニティへの積極的参加」については賛同しているが、既存の日本の地域コミュニティに若年層や外国人が溶け込めるかは疑問だ。実際、若年層は町会の雰囲気には溶け込めていない。
- ・外国人は町会のような隣近所が集まるシステムよりも、宗教施設やフェスティバルなどのイベントに集まる。
- ・若年層と外国人の地域参加を考えるのであれば、既存のコミュニティから脱却すべきだ。
- ・「既存の地域コミュニティの枠組みを超えて、若者や外国人でも地域に参加できるコミュニティやイベントを創出する」という答申案を提案したい。
- ・大阪府では既存の町会にアメリカ人の町会長がいたり、江戸川区には「江戸川インド人会」という会がある。

【新たなコミュニティの創出】

- ・「ひきこもり」の方や精神障害などで人と接することが難しい方でも地域に溶け込める中野であってほしい。
- ・「既存の地域コミュニティの再編と新たなコミュニティの創出」というものを提案したい。
- ・最近では、バーチャル集会なども存在する。
- ・若年層・外国人を地域にどう取り込めるかが今後の自治体の発展のカギになると考える。

岡見委員より

【高齢者の健康及び社会参加について】

- ・高齢者が、外に出かけ身体を動かしながら楽しむ場所があるということは大変重要だ。
- ・区民活動センター、高齢者会館等では趣味の会や身体を動かす体操等の自主グループ活動や介護予防事業を含め様々な事業が行われている。
- ・地域の元気な高齢者は、これからの様々な催しを上手に使い分け、毎日のように外出し、自分の体調を気づかいながら、友人と楽しく過ごしている。
- ・その反面、外出しない人も多く、民生委員は、包括支援センター・社会福祉協議会と連携を取り、外出に向けた声かけや同行の手助け等をしているが、引きこもり状態または地域に縁のない人を外に連れ出すのは大変難しい。
- ・今後、高齢者の増加に伴い、民生委員や地域のボランティアだけでは、行き届いた支援ができなくなっていくのではないかと不安だ。